

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100285		
法人名	医療法人 天仁会		
事業所名	グループホーム うえの家		
所在地	沖縄県那覇市上之屋408の4		
自己評価作成日	平成24年 1月12日	評価結果市町村受理日	平成24年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JGD=4790100285&SCD=320&PCD=47
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に開き、地域に根ざす、より良いケアを地域と共に」を合い言葉に、地域密着型サービス理念の実現に向けて、あたたかいサービス提供を心がけています。うえの家は「大家族」をイメージしたやさしさを持って、ご利用者の皆さま個々のニーズに沿ったサービス提供に努めています。なじみの方が多い安心出来る環境の中で、自宅にいるようなゆったりとした時間と温もりあるくつろぎの空間で利用者同士、職員とのより良い関係作りを大切にしています。さらには「地域交流室」を地域へ開放し、地域交流、地域活動参加の活動を広げている最中です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人施設から少し距離をおいた住宅地(団地やマンション、一戸建)に立地し、近くの港から船の汽笛が時折聞こえている。法人建物の2階で開設2年未満の事業所内は、バリアフリーで採光も良く広々とし入居者がゆったり過ごしている。居室内にも大きな収納タンスを設え、入居者の衣類等私物を保管している。入居者の残存能力の維持を図る為、入居者の意向や家族の要望を介護計画に反映し、趣味や役割(フロア内掃除や食器の片付けや洗い、洗濯物たたみ等)を支援している。管理者は「その人を中心としたケア」に職員とともに取り組み、個別の支援内容等記録も整備している。また、前回の外部評価結果から運営推進会議の開催を実現し、2か月毎の定期の開催や委員等の確保にも努めている。今後は更に、法人施設管理者の配置により、入居者が気軽に周辺住民と挨拶等で交流し、地域の一員として暮らせる環境整備への取り組みが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	くつろぎと穏やかな在宅生活を支援します	事業所理念を基に3つの目標(個人の尊厳、家庭的環境、地域や家族との関係)を掲げ、実践に取り組んでいる。理念について、家族へは面会時等に説明し、職員はミーティング等で、入居者の計画や家族の要望に関して振り返る等共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の傾聴ボランティア交流の継続、家族によるレク(琉舞)指導	事業所周辺の地域住民へ啓蒙し交流の機会を試みているが、家族によるレクや傾聴ボランティアの訪問に留まっている。介護実習の学生が敬老会に参加したり、今後エイサーの披露を予定している。	地域交流室や地域資源等を活用し、地域の一員として事業所や入居者が交流できるよう取り組んでほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として、認知症ケアシンポジウム開催案内等のポスター掲示(入り口)で地域に伝えている。又、管理者は「認知症サポート」活動し、認知症支援に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H23年 7月より開催(奇数月)、運営推進会議議事録は事業内に掲示している	運営推進会議規定や要綱を整備し、7月から2か月毎に家族や行政等が参加して開催している。会議では、入居者の活動状況や外部評価等の報告や、委員間で提案や意見交換し、議事録は事業所内に掲示している。また、団地の自治会長や民生委員にも会議への参加を呼び掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	那覇市ちゃーがんじゅう課と密に相談・報告、連携を行っている又、運営推進会議にも担当職員を派遣していただいている	行政担当者は、運営推進会議で事業所に対する要望や活動内容について意見交換している。また、介護保険制度の改正に伴う介護職員の吸引等の研修案内や、グループホーム集団研修で地域密着型サービス事業所としての運営等の確認をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを活用して、「しないケア」を実践している。現在は事例はないが常に職員の意識統一を図っている	身体拘束マニュアルに事業所方針を明示し、職員は身体拘束をしないケアについて理解している。また、法人内に身体拘束廃止委員会を設置している。入居者の行動を制限せず目的を理解し安全に見守ったり、外出願望には屋外散歩やドライブ等で臨機応変に対応し気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に向けての研修会を通して職員の意識向上に努めている。		

沖縄県(グループホーム うえの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部相談員を受け入れ第三者からの「気づき」を大切に職員へ伝達・指導を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約履行については、契約時に約款などの全文説明を実施、十分な理解を得るよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談時の情報収集や契約時の要望聞き取り、定期カンファレンスなどでニーズなどを把握し、運営に反映するように努めている。「満足度調査」アンケートの実施も必要と考えている	入居者の意見や要望は直接、家族からは運営推進会議や面会時、担当者会議等を聞く機会としている。また、外部から介護相談員を受け入れ、入居者等の不安や要望等の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期・臨時ミーティングにおいて課題検討、自由討議などの意見交換を旨として職員意見を反映するよう努めている	職員は毎月のミーティングで運営等について意見交換等をしている。入浴時の職員体制の見直しや、職員の提案でフロア内にアロマ入り空気清浄器を置き加湿と香りを提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の就業規則にて職場環境・条件について共有。年二回の人事考課・評価のフィードバック、職員個々の目標成果、努力目標を評価し意欲向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での年間研修会・勉強会の実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「小規模多機能連絡会」からの研修案内や同事業所訪問し連携や相談などの情報交換を行ってサービスの質向上に努めている		

沖縄県(グループホーム うえの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談段階から本人の要望や必要とするケアの把握に努め、サービス提供を心がけている。又、初期利用時には特に要す観察や対話を重視し、関係作りにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談段階からご家族の要望や必要とするケアの把握に努め、サービス提供を心がけている。又、初期利用時にはご利用者の利用状況の説明、ご家族の会話を重視し、関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期アセスメントを重視し、ご利用者や家族の要望や必要とするケアの把握に努め、関係する職種の職員と協働しより良いプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は画一的なケアにならないよう、個々のご利用者ニーズに合わせたサービス提供、柔軟な時間対応など、利用者本位を重視し、暮らしを共にするもの同士として信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の要望実現に極力努めて、事業所内はご家族の出入りや付き添いを自由として、家族対話を重視し、お互いの役割を共有しながら、信頼関係の構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅介護支援の立場から、ご家族、友人、知人等、馴染みの関係者の交流を活用したり、回想を大切にしたい思い出の場所訪問などを実施。職員たちも馴染みの関係構築に努めている	入居者の職歴や利用前の居住地を把握し、ドライブのついでに立ち寄り等の支援をしている。入居者と家族の関わりを大切に考え個別の支援を一任しながら、車いす対応が困難な場合の送迎や買い物等の相談には応じ対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が対話しやすい環境作りや職員を交えての交流、余暇活動に努めている。課題分析の中で生き甲斐作りの為の役割分担(水やりなど)を取り入れ、交流に活用している		

沖縄県(グループホーム うえの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(入院・利用終了)でも自宅訪問や相談など関係を継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症実践者研修や認知症リーダー研修での学びからパーソンドケア実施に努め、常に一人の人としてご利用者を尊重し、その人の立場となって理解し、支援やケアを行う事に努めている	その人を中心としたケアに取り組み、入居者の思いや意向を可能な限り家族の協力を得て支援している。把握が困難な場合は、家族が入居者にしてもらいたい事を聞いて実施に繋げている。また、入居者の趣味を支援し、同建物内上階の入所者との囲碁の時間を週4回設定している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期アセスメントを重視し、ご利用者や家族の要望や必要とするケアの把握に努め、関係する職種の職員と協働しより良いプラン作成に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を目標の一つとし、アセスメントや事業所での日常生活観察、在宅での生活状況を聞き取りながら現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームカンファレンスは基より、日頃の状態把握、モニタリングにより日頃から課題確認を行い、ご本人、ご家族を交えての意見交換により利用者本位のケアプラン作成に努めている。	入居者の介護計画は、サービス担当者会議や適宜のアセスメント、3か月毎のモニタリングを実施して作成している。入居者や家族の意向や要望等(足浴や趣味)を把握し、個別の計画に反映している。また、入居者の計画の変更等は、回覧や申し送り等で職員に周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご利用者の様子や状態(バイタルチェック)については、常にケア記録として残し、職員間で情報共有し、実践事項はケアプランに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の申し送りや確認事項等、その日に必要な支援を検討している		

沖縄県(グループホーム うえの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当事業所以外のサービスや社会資源について、利用者本位に考え、主治医との連携などを通して、ご利用者個々の尊厳ある生活支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本位の主治医連携に努め、相談・連絡・報告などを行っている。又、主治医の専門外での状態変化などは状態に応じた医療機関の相談・紹介など行っている	入居者は、馴染みのかかりつけ医を家族対応で継続受診している。訪問歯科診療による口腔ケアの他、訪問マッサージで下肢浮腫の軽減を図る等健康管理にも取り組んでいる。受診時のバイタルやケース記録の提供、医療機関の情報提供書等で情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師間での連携を重視。法人内看護師とも連携や協力、他職種間の連携に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には情報提供、文書での情報交換に努め、入院先の訪問や主治医との連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアの方針や内容については十分説明を行っているが、終末期に向けたケースはない事業所で出来る支援を法人全体を含め体制の構築に努めたい	法人として、看取り等の対応は医療連携や職員体制等の整備がなく、厳しいとしているが明文化はなく、今後は地域密着型サービス事業所として考慮すべき課題として法人全体で話合っている。緊急時や終末期については、医療機関や施設等と連携を図る方針を入居者や家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	那覇市消防本部、法人高齢者福祉部門協力のもとに年数回の救急救命講習会の実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを整備など、体制作りはしているが、地域との協力体制、実践訓練などは努力を要する	事業所内には、自動火災通報装置やスプリンクラー等、災害に備えた設備の充実を図っている。介護主任が、防火管理者資格研修を受講しているが災害計画等の職務の任はなく、災害時の避難訓練等の実施には至っていない。	災害時に入居者を安全に避難誘導できるよう、年に2回の避難訓練の実施が望まれる。

沖縄県(グループホーム うえの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関する研修を実施すると共に、尊厳あるケアについて重視しているが職員一人ひとりの言葉使い(敬語)の標準化など、接遇意識向上には努力を要する	管理者は、馴れ合いの言葉遣いではなく敬語を使用し、業務優先ではなく入居者のペースに合わせた対応を、ミーティング等で職員に指導している。入居者が落ち着かない、怒りっぽい等の言動等がある場合、様子を観察して要因を把握し、不安の軽減に向けた対応の工夫を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケースカンファレンスにおいて、極力ご利用者本人の参加をもとめて、要望の聞き取りに努めている。又、日頃よりご利用者本人のニーズ把握に努め、日常生活の意志決定も尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしに重点を置き、やりたい事をやりたいペースでできるよう、また本人が安らぐ居場所を配慮し「やさしい自由時間」をテーマに支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	尊厳ある生活が保てるよう、日常生活の支援に配慮するとともに、整容や身だしなみには細心の注意を図っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士と連携し、小規模事業所ならではの対応で、ご利用者一人ひとりの嗜好や分量に配慮しながら支援している。又、ご利用者の役割(生き甲斐作り)を持って片付けや準備を手伝ってもらっている	食事は、主食を事業所内で準備し、副食は3食法人から配食サービスを受けている。入居者の個別計画に役割を盛り込み、テーブル拭きや食器洗い等で残存機能を発揮する機会をつくっている。食事は入居者のみが静かに摂る風景で、職員は介助で食卓に着く程度である。	入居者が食事を楽しみなものとなるよう、職員の関わりを増やし、対応を工夫してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食事摂取量をチェックし、栄養や水分確保には細心の注意を行っている。又、法人内管理栄養士との連携により個々の栄養バランスを図っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施、清潔保持に努めている。ご利用者本人の状態に応じた支援(口腔ケア)を行っている。		

沖縄県(グループホーム うえの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尊厳ある生活への支援に努め、ご利用者一人ひとりの状態に応じ、おむつ減らしや自立排泄支援に向けて取り組んでいる	入居者の排泄パターンに応じ、個別にトイレに誘導している。「個別の排泄支援をきちんと行うことで落ち着きのある生活が送れる」事を職員間で話し合い、援助方法を検討し対応している。失敗時は羞恥心に配慮し、トイレや浴室にそっと誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に十分注意し、管理栄養士や看護師・介護の連携のもと、便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、ご利用者一人ひとりの希望を聞き取り、極力要望に応じた対応に努めている	入浴は、週に3回男性、女性と設定しているが、希望に応じていつでも対応し、夜間の入浴も支援している。同性介助を基本とし、異性が介助に当たる場合は入居者の意向を確認し了解を得ている。拒否のある場合は、時間や対応者、アプローチの方法を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者一人ひとりの状態や体調などを考慮し、休息・午睡など、安眠への支援に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状態については、職員全体で情報を共有し、看護師を中心に支援している。又、日頃よりご利用者の体調変化の観察について細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの生き甲斐作りとして、役割を持って活動することに重点をおき、支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出支援については、近隣の散歩を中心にご利用者一人ひとりの希望に沿えるよう努めているとともに、季節行事やミニドライブを通じて、豊かな生活支援に努めている	入居者は職員と一緒に、近くの公園まで散歩に出かけ気分転換を図っている。入居者の買い物の希望には、近くのコンビニや大型スーパー等に出かけている。海底トンネル開通時には、ドライブに行く等の外出支援に取り組んでいる。	

沖縄県(グループホーム うえの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者一人ひとりの能力に応じて対応しているが、全利用者への対応については努力を要する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の対人関係、コミュニケーションを重視し、ご利用者の希望、要望に添って対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間作り、ご利用者本位の空間作りに努めた。又、緑の配置や季節感作り、季節行事の飾りなど、細心の注意をはらい、四季折々の生活作りに努めている。	共用空間は広く、フロー内清掃の役割の入居者の協力もあり、掃除が行き届いている。テレビの前にはソファセットがあり、入居者同士の団らんの場となっている。また、クリスマス会等の行事の際は、電子オルガンを入居者が演奏し、行事を盛り上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者一人ひとりの安らぐ居場所作りに配慮し、共同生活を楽しめる場所、一人でゆっくり過ごせる場所、屋上庭園など、多数の空間づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、ご利用者及びご家族が自由に部屋作りを行えるよう配慮するとともに、選択肢がある場合は自由に居室場所を選択していただいている。又、ご利用者の状態に応じた空間作りのアドバイスに努めている。	居室には、入居者の使い慣れたベッドや椅子、ドレッサーやアイロン台等を持ち込み、部屋作りを工夫している。担当者会議で家族から「温かみのある部屋作り」の要望があり、植物や写真を飾る等に取り組んでいる。また、各居室には、職員による共通の掲示用ボードを取り付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人ひとりの有する能力に応じた自立生活支援の為、多数の工夫を行っており又、安全な生活への配慮に努めている		